

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|----|-----------------|
| 所在 | 東京都港区六本木4丁目5-11 |
| 園名 | sakura 保育園六本木 |

1 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
幼児クラスになり朝の会でピアノの音を聴いたり声の大小について考える機会が増えました。自然に溢れている日常生活での音や楽器の作り出す音などを通して音の繊細さや綺麗さに触れ、感性を高められるようにこのテーマを設定しました。

2 活動スケジュール

- ・ 11月から2月の期間に全6回の活動を予定していたが、日々の保育体制や活動時間の確保を考慮し、安全かつ丁寧に活動を行うために全4回に変更した。
- ・ 限られた実施回数の中でも、活動のねらいが達成できるように子どもたちの興味や発見に応じて柔軟に行った。
- ・ 子どもたちが園内、園外で音探しを行う。友だち同士で、どこでどんな音がしたかを意識して探索できるように関わり、子どもカメラで記録して振り返る。
- ・ 子どもたちの様子や気づきなどを保育者間で共有し、次回の活動内容や構成を考慮していく。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
子ども用カメラ、子ども用ipad、鉄琴、トライアングル、けんぱんハーモニカ、ミュージックベル、スネアドラム、マーチングシンバル、わだいこ、すず、タンバリン

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 3歳児、4歳児、5歳児の3グループに分けて異年齢児で行う。
- ・ 子どもたちが持っている音に対するイメージの共有をする。
- ・ 園内、園外にて音の探究をする。
- ・ 自分たちで音をつくる、鳴らす。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ 音を探るときに自然に発生する音よりも、自発的に音を鳴らす(つくりだす)子どもたちが大半である。子どもたちにとって音は楽器のように鳴らすイメージであった。
- ・ 活動後も「これも音かな?」「これもこういう音がする」と探究する姿が見られた。
- ・ 友だち同士で鳴っている音を共有したり、擬音語にしたりする姿が見られた。

5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ ひとつの音に対する、また、それぞれが表現する擬音語が異なり、友だちと発見した音を伝え合う中で同じ音でも感じ方が違うことを感じた。
- ・ 全活動を通して、普段関わりの少ない子ども同士で考えに共感したり、共有し合っている姿が印象的であった。活動後にはこれまでより積極的に楽器に触れようとしたり、ドレミに興味を持つ良い機会になった。
- ・ 今後は楽器づくりや音と他の表現を組み合わせるなど、さらなる発展的な活動へつなげていきたい。

活動の様子写真

別紙参照

